1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0270301567		
法人名	特定非営利活動法人　しゃらく		
事業所名	グループホーム・トントン邑		
所在地	青森県八戸市湊高台三丁目1番10号		
自己評価作成日	平成28年4月30日	評価結果市町村受理日	平成28年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成28年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①利用者に安心・安全・安定のある生活をしていただくため、研修や講習に参加して職員のケアの質を高めると共に、利用者の感情表現を大切にし、自己決定を促して尊重する。安らぎと喜びのある日々をその人らしく最後まで生活していただく。②グループホームとして町内会に参加し、班長として町内会費の集金をしている。町内総会、避難訓練の時に町内会・民生委員・婦人会等の地区住民にも参加していただき、交流を深めている。老人クラブと一緒におやつ作りをし、保育園・芸能クラブの訪問を受け入れている。町内行事(花見・納涼祭等)、公民館行事(えぶり鑑賞会・つつじ祭り・敬老会・文化祭等)に参加している。 ③成年後見・任意後見制度や日常生活自立援助事業等の紹介、成年後見・任意後見制度申立等手続きの支援、虐待の早期発見・対応等を行う権利擁護。 ④病院・福祉施設・公営住宅・民間アパート入居時の身元保証支援。⑤身障者手帳取得申請・生活保護受給申請の支援。⑥遺言状の作成・相続・葬儀・身辺整理の支援。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームは大通りに面しており、コンビニやスーパー等の商店も多い。地域に根ざした施設を目指し、町内会へ加入すると共に、班長を務める等、地域活動も積極的に行っている。

また、勤務体制については、職員からの希望をできるだけ調整することで、働きやすい環境を整えている。このことにより、職員は心にゆとりを持って業務にあたることができ、利用者のケアの向上につながっていることが伺われる。

利用者の生きがいづくりについて、玄関先のミドリガメの飼育や趣味活動の支援等に取り組んでおり、理念にもあるその人らしさを大切に生活が継続できるよう、ホーム全体で取り組んでいる。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念はホール・事務室に掲げ、いつでも目につくようにしている。また、利用者の意向を尊重して、声がけしている。	地域密着型サービスへの移行時に職員間で話し合い、見直しを行って、ホーム独自の理念を掲げている。理念は、利用者が地域との交流を図り、その人らしさを大切にしながら、家庭的な生活を援助していくというものであり、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設の初年度より町内に加入し、総会等に出席している。避難訓練も町内の方に参加してもらっている。	町内会に加入して班長を務めている他、地域行事へ参加する等、積極的に地域との交流を図っている。また、ホームの避難訓練では地域住民の協力が得られている他、物品の寄贈も多く、地域住民にホームを理解していただき、関わりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が外を徘徊した時のお願いのビラ配りをしたり、公民館の行事には利用者も参加するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日頃の活動を報告したり、町内の方の意見を聞いて、サービス向上に努めている。	運営推進会議のメンバーは町内会や婦人会、民生委員、利用者家族等で構成されており、行政にも依頼して、出席していただいている。会議ではホーム運営の他、社会情勢に関する事等、幅広く話題提供を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かわからない事があれば、市担当者に聞くようにしている。	運営推進会議への参加を得て、ホームの実態等を理解していただいている他、制度やサービスに関する事等、必要に応じて相談等を行い、助言をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	基本的に身体拘束をしないという姿勢でケアを実践しており、身体拘束に関するマニュアルや書面での同意、記録を残す体制も整備している。ホール入口は安全管理上施錠しているが、入居時に説明を行い、書面にて同意をいただいている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のポスターを貼ったり、パンフレットを置いている。また、虐待防止法について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は理事長に説明してもらい、勉強している。事業所自体も身元保証をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口から食べられるうちはホームで介護でき、経管栄養になれば対応できないことや、緊急時の病院の時は家族の方も立ち会ってほしいこと、また、料金の改定時は説明と同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の苦情等については、市役所の介護保険課や青森県国民健康保険団体連合会の窓口をお知らせしている。また、玄関に苦情箱を用意している。	家族には主に面会時に聞き取りを行っている他、利用者個々にまとめられたホームだよりにて、近況等を報告している。また、玄関には意見箱を設置しており、過去に投函された利用者の意見も反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見があれば、できる事は取り入れるようにしている。また、職員同士で話し合い、まとめている。	ケース会議ではケース検討の他、ホーム運営に関する話し合いも行っている。職員の意見によりホーム内のエアコンを増設する等、管理者は職員の意見の反映に努めている他、業務が停滞しない範囲で、職員が希望する勤務にも極力応えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得すれば、資格手当や役職手当を支給している。家庭の事情に合わせ、シフトを作成する際は、公休希望を毎月聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修があれば、交替で出るようにしている。資格取得の勉強会の情報提供をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会や懇親会に出席し、親睦を深めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は、本人に説明して、声がけをしながら意向を聞き、信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を聞きながら、面会、外出、外泊はいつでもできるよう説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来た時は、在宅であれば、短期入所等で慣れてから入所を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図り、昔ながらの知恵や知識を教わる等して気持ちに寄り添い、感情表現ができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人を交えて最近の様子を家族等に伝えたり、過去の生活歴を聞きながら、本人が安心して過ごせるよう協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内での面会は自由に行っている。気楽に来れるよう、声がけや手紙、電話等の支援をしている。	入居時に馴染みの人や場所を聞き取り、記録にまとめている。知人等への年賀状の代筆や馴染みの理髪店への外出等、利用者がこれまで大切にしてきた関係を継続できるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの意見を尊重し、利用者同士が関わり合い、親しみが持てるよう職員が間に入り、コミュニケーションを図る支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気楽に来てくださるよう声がけをし、ホームへの出入りは自由にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとり、利用者の意向や希望等を聞き、安心して生活できるよう努めている。	利用者とコミュニケーションをとりながら、意向や希望を把握しており、うまく表現できない利用者でも手を握った反応で確認する等、方法を変えて把握するように努めている。また、必要に応じて、家族等、関係者からも聞き取りを行って把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境をできるだけ変えないよう、家族や利用者から生活情報を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを変えないよう、できる事は行ってもらい、体調変化に気をつけながら、見守りや付添い等で現状を把握している。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や利用者より生活歴、趣味等を聞き、現状に合った介護計画を作成している。また、残存能力等を活かせるように努めている。	介護計画は利用者個々の生活状況に即したものとなっており、実施期間中でも、状況の変化に応じて見直しを行っている。また、介護計画は利用者や家族の意向を基に、全職員で話し合いの上、作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録があり、日勤、夜勤の様子を記録し、職員間で情報を共有している。気づきや改善等がある時はすぐに話し合い、見直しをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望に合わせ、事業所の車で自宅、病院への送迎等を行っている。また、他施設等の案内も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や町内の方に参加していただき、避難、消火訓練をしたり、2ヶ月毎に運営推進会議を行い、安全で安心した暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の要望等を聞き、かかりつけ医を受診できるよう通院介助をしており、診断結果等の報告も行っている。本人に体調変化があった場合にはかかりつけ医に相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に聞き取りを行い、利用者のこれまでの受療状況を把握しており、利用者が希望する医療機関への受診を支援している他、協力病院や地域の歯科の協力も得ている。また、家族には面会時や電話にて受診結果の報告を行い、情報共有に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し、利用者の体調や状況の報告、相談をしている。また、指示やアドバイスをいただきながら、利用者の健康管理等をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院時には家族へ連絡し、病院関係者と、病状の経過や退院の見込み、相談等、情報交換を行っている。また、利用者が安心して治療できるようケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	早い段階から本人や家族と話し合いを行い、医師の指示方針に基づき、訪問看護師、本人、家族、全職員で方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	入居時に意向を確認し、家族や医療機関、訪問看護師、ホームが連携をとりながら、現在も数名の利用者に対して終末期のケアを実践している。また、ケアの経過も記録に残しており、情報の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故対応について、訪問看護師より、ホーム内で定期的に講習会を行い、全職員が参加できるようにしている。また、研修等にも参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練や避難訓練は地域の方にも参加していただき、定期的に行っている。地域の避難場所（東運動公園内、東中学校校庭）は全職員が確認、把握している。	避難訓練は春と秋に行われており、秋は夜間を想定した訓練に取り組み、訓練時間も夜間に近い時間帯で実施している。また、訓練には地域住民や民生委員、消防署の協力も得ており、災害に備えた備蓄品については布団やオムツ等の生活用品の他、食材を多めに蓄えることで対応している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報を漏洩せず、言動や対応については、利用者を年長者として尊重し、接している。	入居時に個人情報の取り扱いについて説明し、書面にて同意を得ている他、第三者への情報提供についても家族に確認をとる等、取り扱いも慎重に行っている。職員は利用者の尊厳を大切に考え、日々のケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴え等を傾聴し、レベルや状況を考慮して支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて支援している。職員同士での話し合いにより、希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みに合わせて、コミュニケーションを取りながら希望を受け入れ、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の能力やレベルに合わせ、おしぼりたたみ、下膳、メニューのリクエスト等、可能な限り提供している。	入居時に利用者の嗜好や禁止されているものを把握し、記録にまとめている。また、利用者の状況に応じてメニューを変える等の配慮があり、誕生日には利用者の希望するメニューにする等、利用者が食事を楽しめるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個人の体調に合わせ、量、硬さ、形を変えて提供している。水分量の確認、記録をしている。また、状況により、食事介助をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の有無や口腔状態によって、歯ブラシやスポンジを使用している。ブラッシングの見守り、確認、介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、その利用者に合った声がけや誘導をして、自力で排泄できるよう支援している。	利用者個々の排泄状況を記録に残し、全職員が事前誘導するタイミング等を把握している。排泄に失敗した場合でも他の利用者に気づかれないよう、羞恥心にも配慮した支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	利用者の排便状況を記録し、自然な排便や病気の予防につなげるため、廊下の歩行運動や水分補給、日々の食事での野菜摂取ができるような献立作りをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の体調や気分を観察し、入浴時間や浴槽内の温度を調整している。場合によっては拒否される時もあるので、その時は無理強いはしない。	入浴日を決めているものの、入浴順や時間帯については利用者の希望を取り入れている他、トイレ失敗時等、必要に応じてシャワー浴の提供もある。入浴を拒否する利用者に対しては無理に勧めず、興味を引く声がけをしたり、時間帯を変える等、なるべく入浴してもらうように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人の要望や体調によって、居室で休んでいただいている。ホールで過ごされる時は、まるで家に居るように、ゆったりと寛げるような環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は必ず、介助と確認を行っている。利用者一人ひとりの薬の内容、効能、副作用を理解している。また、服薬による症状の変化等が見られる場合は、訪問看護師や医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりができる範囲の能力、その人それぞれ趣味や生活歴を活かし、体の負担にならないよう努めている。また、「やりたい」と思う意欲向上にもつながるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて、可能な範囲でドライブ、散歩、買い物等に出かけている。町内の祭りにも積極的に参加し、交流を深めている。	利用者の気分転換や楽しみにつながるよう、花見や外食、地域の祭りへの参加等、外出できる機会を設けている。また、お墓参りや馴染みの理髪店等、利用者が希望する外出先にも、希望に応じて対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの希望に応じて、可能な範囲で、金銭の所持や使用ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの連絡や確認を取れるようにしている。状況に応じて、電話のやりとりができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、居室に花や飾りで季節を取り入れている。日中はカーテンを利用し、外からの刺激を調整している。	玄関では長年飼育しているミドリガメが出迎えてくれて、利用者が飼育を行うことで、生きがいづくりの一助となっている。また、ホーム内には行事の写真が掲示され、面会に来た方が利用者の生活状況を確認できる他、利用者が描いた絵も展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の個性に合わせ、座席の配置をしている。ホールのソファでは自由に寛げるよう環境づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、家族との写真や使い慣れた家具等を置いている。	利用者の居室には仏壇や漫画本、絵描き道具等、馴染みの物や趣味の物が置いてあり、その人らしい生活を継続できるよう、職員も協力しながら居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、脱衣所等に手摺りを設置している。利用者一人ひとりの身体機能に合わせ、使用していただいている。		